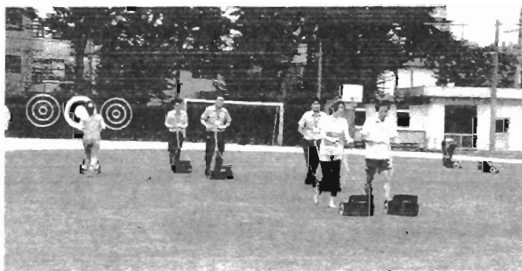


足元の「生物多様性」の実現

—学校ビオトープを支援した人々・若者たち

10月 国連 第10回生物多様性条約締約国会議(名古屋)を目前にして



校庭全芝の芝刈り支援の人々
地域の方、保護者、児童、地元企業の
ボランティアの方々も参加していました

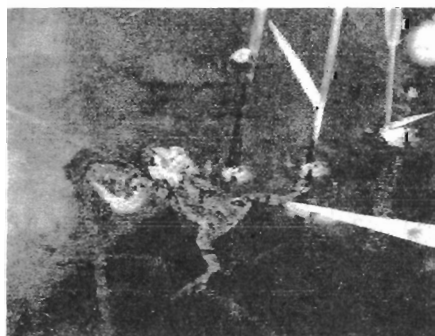
歴史に残る最高温度を記録した今夏、みなさん、いかがお過ごしでしたか。厳しい残暑が9月の今も続いておりますが、誰もが、この気象変動から、私たちのいのちの土台である地球の近い未来に多くの不安を感じたのではないのでしょうか。温暖化の到来を実感する日々だったように思います。

こんな夏、7月下旬より9月の現在まで、芝を含む学校ビオトープを守り、維持発展させる活動が毎週土曜日、板橋区立蓮根第二小学校で行われています。参加者は、学校の保護者と教師、子どもたち・卒業生の保護者、地域の人々で作るビオトープつくろう会の人々と、応援に駆け付けた、各大学の学生たち、環境活動を進める企業の方です。今秋に開かれる世界の生物多様性を守るための条約締約国の会議へ向け、全国で様々な、環境活動が行なわれていますが、ここ、板橋区内の蓮根第二小学校でも、校庭の全芝化を精力的に進め、それも含め支援する学校支援地域本部が立ち上がり、大勢の地域の方々が、子どもたちのための学校の環境保全のために活動を続けています。SOEも学生スタッフ、今夏からスタートしたインターシップで法政大学から参加している学生と一緒に応援しています。下記は、学生たちによる今回の支援活動の感想です。

『蓮根第二小学校ボランティアをやってみて』

小学校の校庭が芝生になっているという事は、私の小学生時代には考えられなかった事だが、蓮根第二小学校のビオトープは10年間守られ続けているというのだから、私が小学生の時こちらの小学校では既に環境を考えたビオトープが作られていたという事になる。私の家は土地柄、比較的自然に囲まれた場所に位置していたので、植物や昆虫との触れ合いなどといった事は頻繁にあったように思うが、小学校という場においてこうも堂々と自然が学校内に存在している状態というのは、初めて目の当たりにした事であった。このような珍しくかつ恵まれた環境の小学校に通う子供達は何を見て、何を考えるのか。私には体験することができなかつた。その感覚を、機会があれば是非知りたいと思った。

ビオトープのアズマヒキガエル



(日本女子大学人間社会学部1年 飯塚 詩織)



大きなアズマヒキガエルが穴から出てきた

『メダカもこんなにいたんだ!』

芝の校庭に、たくさんの生物の住むビオトープ、始めて蓮根第二小学校に来た時、この小さな環境の中にどんな生き物がいるのかワクワクしました。芝刈りやビオトープの管理を何回かやっていると、毎回違う変化や発見があって、とても楽しく活動しています。最初きた時には、芝は青々としていたのですが、今年の夏は猛暑が続いているので、一部の芝が枯れてしまい、そこはあまり芝は刈れませんでした。

ビオトープでは水の中に生えている草や藻をとっていくと水面が現れてきて、それと同時にトンボ達が寄ってきて、まるで喜んでくれるかのように見えました。メダカもこんなにいたんだ!

というくらいたくさんいて嬉しかったです。草をとっていると見

えていなかった生物がひょこひょこ顔を出して、どこに隠れていたんだらうと思うような大きなカエルが出てきたときは特に面白かったです。小さな環境の変化は生態系に良くも悪くも影響を与えるんだと、あらためて感じる事ができました。(法政大学人間環境学部3年 稲垣 友花)

『親子の会話が弾むきっかけになったり地域のコミュニティの輪を広げる可能性』

この夏初めて、芝刈りとビオトープ管理に参加し、学校の緑の維持にはたくさんの人の協力が必要であるということがわかりました。

校長、副校長・地域コーディネータの方の環境維持への強い決意があってこそと思います。また私達の他にも、保護者の方やコココーラの方など、オープンな学校運営の大切さも感じました。まだまだ地域の参加者が増えることで、よりいっそうビオトープを盛り上げることが出来ると思います。

ビオトープは、子供の自然に対する理解や興味を引き出すだけでなく、親子の会話が弾むきっかけになったり地域のコミュニティの輪を広げる可能性を秘めていると思います。それが10年たっても20年たっても続いていくような場所であってほしいと願っています。



親子で生きもの探しの作戦

(法政大学人間環境学部3年 五味 希)



漂々しいつなぎ姿のインターン生

『初めてつなぎを着て作業しました』

この日は前回希望した通り、つなぎを着てビオトープ整備にあたりました。つなぎを着ているというだけでどんどん作業に集中することが出来て、しかも服が汚れてしまうことや蚊に刺されてしまうと云ったことを気にせずにビオトープの中に入って作業することが出来ました。前回よりもそういったものを気にせずに作業することが出来た成果、ビオトープがみるみるきれいになっていくし、またそれがうれしいし、すごく楽しかったです。しかも自分が少したくましくなれた気がしました。次回もぜひつなぎを着て作業しようと思います。

(法政大学人間環境学部3年 小藪 真帆)

『シオカラトンボの縄張り争い』

8月31日、午前中だったので、まだ日はそんなに高くあがっていませんでしたが、これから暑くなるであろうと予感させる太陽でした。芝刈りの後、校庭の一角にあるビオトープに向かいました。コンクリートの池をのぞくと、黒メダカの群れに一匹黄色いメダカが混ざっていました。こういうこともあるんだな、と眺めていました。草むしりをしながら池をぼんやりと見ていると、4種類のトンボが飛んでいることに気づきました。上旬に来たときにはキイトンボが多く飛んでいたように思いましたが、この時期は数匹しかいませんでした。池の周りを見てみると、シオカラトンボが多く飛んでいます。追いかけて回しているのを度々見かけたので、オスがメスを追いかけているのかと最初は思いましたが、そうではないことに気がつきました。このビオトープの私の母校の小学校は固いグラウンドで、生き物もあまり見当たりませんでした。縄張りを持ったオスが侵入してきたメスを追いかけていました。ちょっと歩いたらビオトープに行ける、うらやましく思います。(学芸大学大学院1年 伊藤宗彦)



シオカラトンボの縄張り宣言

『ビオトープを保ち続け、有効活用できているのは素晴らしいことだ』

ビオトープ(芝を含む)の観察と除草作業に参加させていただき、環境教育の大切さについて改めて考えさせられた。教職員、保護者、児童と一緒に作り上げたというビオトープには、十年経た今でも多くの生き物が見られる。立派に完成させたことは勿論だが、保ち続け、有効活用できているのは素晴らしいことだ。蓮二小では各学年が各教科学習でビオトープを利用し様々



手入れの後のビオトープ



な取り組みがなされていて感心した。また、芝を含むビオトープが地域社会との繋がり役割を果たしていることも実感した。子ども達が自然との触れ合いを通し、感性や体力、判断力等を身につけるように、私も学ぶことが多くあり感謝している。足下から始め、地球規模で考えられる環境教育の良き例であると思う。

(日本女子大学人間環境学部1年 井上美聡)

作業後ビオトープの中で自然を語る

SOEメンバーからのメッセージ

水のドキュメンタリー「ブルーゴールド」を観てー

SOE 高橋雅俊

意味は「ブルー」は「水」で、「ゴールド」＝「金」で、水を大企業に所有され高騰し、金のなる木に変貌しているという意味です。

映画を見て率直に思ったことは「知らない」というのは怖いなぁというのを感じました。今日本にいて当たり前のように水がペットボトルで売られていますが、20年前までは水はお店に買えなかったと思

ます。ほとんどの人はその水はどこから作られているのか、水売ることで悪影響について知りません。世界ではコーラの値段より水の値段が高い国が存在します。

日本では蛇口をひねれば当たり前のように出てくる水も、蛇口をひねっても出てこない国もあります。当たり前すぎて気づかないけれど、便利な人がいれば必ずどこかで困っている人たちが存在します。

水は誰にでも享受されるものなのに、一部の権力が支配しています。たとえばボリビアでは、債務削減と引換えに世界銀行から水道事業の民営化を迫られ、水道料金が莫大に高騰したうえ、雨水を集めることさえ禁止されました。これに対し立ち上がった民衆は粘り強い抗議行動を展開し、ボリビアで長くつづく抗争は象徴的な闘いとして語り継がれています。

水は体の中でも7割近く水分で構成されていますが、その水について安全な水が飲めなくなるという危機的状況に現在陥っています。でもまだ間に合います。

水がどこから来てどこへいくのかという循環を考え、未来につなぐべき行動をしなければならないときだと思います。解決策は映画に出てきます。ぜひご覧ください。

映画の内容は以下 URL に詳しく載ってます。http://www.uplink.co.jp/bluegold/

6月17日(木) 4~5時間目 目白小1年生・2年生

「校庭の宝物をさがそう」の環境教育の授業に参加して

「授業を始める前は1年生は特に3月まで幼稚園生だったので4人グループで一緒に行動しながら見つけられるのか不安だった。しかし、1年生も2年生も4人グループで友達と共感しながら、声をかけあって積極的に探しており、私達の助けがなくても十分に子ども達は動いていて驚いた。今回の授業で私は、子ども達は大人が思っている以上に主体的に行動できることを感じた。だが、子ども達が探してきて、「全部見つけたよ」と言われたり、「○○はどれ?」と言われた時に自分が自信をもって子ども達と対話できているか、不安になった。子ども達は私達が働きかけなくても、自ら感じたり、探したりできるので、子どもが訊ねてきたりしたときに、共感してあげることはもちろん、正しい答えなんてないけど、その子一人一人の感性を少しでも伸ばしたり、また興味をもっと持てるような返事をしてあげられるようになりた」と今回の授業に参加して強く思った。」(日本女子大学3年 桑原 奈美)

● S.O.E. 活動報告 (2010年7,8月)

日	曜	内容
25	日	SOEワークショップ
31	土	蓮二小校庭芝刈り・ビオトープ維持管理活動SOE学生参加開始
5	木	NHKセイブザフューチャー説明会参加
7	土	~8月28日まで毎土曜日蓮二小校庭芝刈りビオトープ支援参加
10	火	板橋区環境教育プログラム部会出席
29	日	SOEワークショップー環境教育プログラム検討 NHKセイブザフューチャー出展内容検討

● S.O.E. 活動予定 (2010年9月)

日	曜	内容
4	土	蓮二小校庭芝刈りビオトープ維持管理活動
6	月	学校との授業計画連絡調整
7	火	SOEニュース原稿割り付け・映像整理
9	木	板橋区環境教育プログラム部会
11	土	蓮二小校庭芝刈りビオトープ維持管理活動・自然観察
12	日	9月号ニュース発行作業
14	火	環境教育プログラム試行授業 板一小4年
18	土	蓮二小校庭芝刈りビオトープ維持管理活動 午後SOEボランティア交流会於赤塚公園
25	土	蓮二小校庭芝刈りビオトープ維持管理活動
26	日	SOEワークショップー環教プログラム案検討 NHKセイブザフューチャー準備
27	月	三園小1年授業事前打合せ

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp